（政務活動費用）　　（様式１）

出　張　報　告　書

平成２９年１２月６日

釧路市議会議長　渡辺　慶藏　様

会 派 名　自民クラブ

代表者名　草島　守之

次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受　命　者	草島　守之
出　張　先	北見市
期　　間	平成２９年１１月２７日　～　平成２９年１１月２８日（２日間）
用　　務	道新フォーラム「地域住民の足をどう守るか」参加
調査（研修）結果等の概要	別紙報告書の通り
備　　考	

注）１　資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。

２　調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

道新フォーラム「地域住民の足をどう守るか」参加報告書

平成29年11月27日(月) 15:00~17:30　於 ホテル黒部(北見市)

釧路市議会 自民クラブ　草島　守之

釧路市に影響の大きいＪＲ根室線(花咲線)と釧網線の維持・存続問題は釧根・北網圏域だけにとどまらず、道内全域の10路線13線区に及んでいる。

このことから、それぞれの関係沿線自治体は道を中心に協議会を立ち上げその方策を見出そうとしています。

私達は地元の鉄路の現況を把握する一方で共通課題に直面する他の圏域を勉強し、全道で共通する課題は全体の対策として取り組むべきと受け止めます。

そこで同じ問題点を抱える石北線沿線関係者の取り組みを参考にしたいと思い以下のフォーラムに参加。

11月27日北見市内のホテルで開催されたＪＲ北海道の路線見直しをテーマにした道新フォーラム「地域住民の足をどう守るか」(北海道新聞社主催)はＪＲ北海道が「単独では維持困難な路線」として発表された石北線も一年が経過し、関係沿線自治体を中心に存続に向けた議論を進める中、私をはじめ市民・関係自治体から約140名の出席者あり。

＜第一部＞基調講演では「鉄道が地域を活かし、地域が鉄道を活かすために」のテーマをもとに名古屋大大学院教授 加藤博和(かとう ひろかず)氏は全国の鉄道路線見直し問題に詳しいお一人で、道内の現状について「自分たちの鉄道という自覚が薄い。今は違うやり方ができるチャンス。残してほしいと願う関係者の思いとしっかりした必要性を発信しないと国は支援しないだろう」と指摘。そして利用促進策に熱心な取り組みを行う道外の鉄道会社や自治体に鉄道施設を保有してもらう「上下分離」などの事例を紹介。

「鉄道網を自らの手に取り戻し、取捨選択し生かすことで地域に役立つ公共交通網の再生が可能。地域住民と関係者の積極的な議論を訴える。。

＜第二部＞パネルディスカッションではパネラーに加藤氏をはじめ
辻　直孝氏(北見市長、オホーツク圏活性化期成会会長)
長南 進一氏(石北沿線ふるさとネットワーク事務局長)
島田　修氏(ＪＲ北海道社長)の4名とコーディネーターは
三浦北海道新聞経済部長が務め進められました。

最初にＪＲ北海道が現在に至った経緯について島田社長よりＪＲ北海道の30年の歩みの中で社会環境の大きな変化、それに対応してきた取り組みと国からの支援策、そして今後維持するために求められる方向性を説明し理解と協力を求める。

辻市長はここに至るまでＪＲ北海道から自治体・関係者に充分な説明がない中で突然鉄路の維持は困難と言われても納得できない。「石北線は札幌・旭川・北見と中核都市を結ぶ幹線であり、道東と札幌圏を結ぶ広域観光ルート、また多くの農産物を運ぶ物流を支える路線」と強調し、路線見直しに関して「簡単に容認できない」と発言。
長南事務局長は「ＪＲと地域の協議が膠着している原因は、国の支援策が見えないからだ」と発言。これに対し島田社長は「単なる赤字補填では持続可能なものにはならない。問題の原因は利用者の減少に伴う公共交通を地域の実情に合わせてどう再構築していくか」と答え、今後も地域と共に公共交通の在り方を巡り議論を進めていく考がを示されました。

このやり取りを聞いて当地域で抱える根室線(花咲線)と釧網線も同じ課題と共通した対策が必要と受け止めました。改めて私達は現況の経過と課題を認識し将来的に必要な方法や、今やらなければならないのは何かを整理して行きたいと感じました。

道新フォーラム「地域住民の足をどう守るか」参加日程

平成 29 年 11 月 27 日(月)～28 日(火)

11 月 27 日　釧路市 12:30 ──→ 北見市 15:00　ホテル黒部２Ｆ

(泊)東横イン北見駅前

11 月 28 日　北見市 8:00 ──→ 釧路市 10:30